

Abstract Butter 2011.7.10-2012.7.9

幼少の頃、朝食のパンで遊び食べをしていました。

大人になり、ペインティングナイフで絵の具を塗っている時、パンにバターを塗る感触を思い出しました。創造するということはアトリエだけで起こることではなく、生活のどんな瞬間にも起こり得るものだと思います。

これは朝食の創造を毎日更新し、一年分(365日)記録したプロジェクトです。

私の小さな頃の食べ遊びは、バターだけでも昨日より美しく塗ることや、歯だけを使って正円を作りながら食べ進めたり、あるルールを設定し、くる日もくる日も食べ続けました。ある時はこしあんパンのあんだけで正確な立方体を作り、一口食べては一回りちいさな立方体を作ることを繰り返し、母に怒られたこともあります。その頃は多くの色を使ってはいみせんでしたが、パンの表面のテクスチャーや食感、味にこだわっていました。

Abstract Butterでは、作品により近い朝食を創造することを意図していましたが、何を描くか、うまく描けるかが重要ではなく、ひとすくいのナイフでどのくらいの大きさの色面が描けるのか、道具をどのように使うとどんなテクスチャーをつくりだせるのか、一緒に食べたくないけれど一緒に描きたい色があるときはどうするのか、そのような色と味のギャップや組み合わせを楽しんで貰えたら嬉しいです。ルールをひとつ提案するとしたら「全部食べること」ひとつです。出来上がりが好きではなくても食べている途中で違う作品が見えてくるので、食べている時間も楽しんで貰えたらと思います。

益永梢子